



## その 2 開発建設部

# 通信総合研究所沖縄亜熱帯計測技術センター完成

通信総合研究所沖縄亜熱帯計測技術センターは、亜熱帯海洋性気候帯の大気・海洋観測及び電波の有効利用等を目的に、中城村にて研究開発を進めてきましたが、中城跡一帯の公園整備計画に伴う沖縄県からの要請と情報通信ネットワークの研究を含む施設拡充が認められ、このたび、恩納村の米軍通信所跡地内に施設が完成しました。



### 1 施設概要

#### a 建設地

沖縄県国頭郡恩納村字恩納野原四四八四

#### b 敷地面積

二八、六三六㎡

#### c 構造、規模

庁舎 鉄筋コンクリート造(地上二階  
塔屋(階建)  
延べ面積 約一五八㎡

### 2 設計主旨

#### 配置計画

庁舎は、敷地形状になじむ形で北側農道に沿って配置し、北側の二階建の研究棟と南側の平家の展示棟及びそれらをつなぐ玄関から構成されています。来所者は正門からアプローチし、研究棟と展示棟の間から自然に建物内へ誘い込まれるような配置計画としました。

#### 平面計画

研究棟は、一階に管理部門、厚生部門などの他に地域との交流及び学際連携を図るための大会議室やセミナー室、TV会議なども可能なマルチメディア会議室、二階に観測・研究のための諸室が配置されています。屋上はレドームを設置するなど屋外観測スペースとして有効に利用しています。

展示棟は、一階に展示室、セミナー室等の公開部門を配置しています。屋上は緑化を行い熱負荷の低減を計っています。

#### 立面計画

亜熱帯に属する沖縄においては開放感を確保しながら強い日差しを遮蔽し、室内に入る熱負荷を軽減することが、省エネルギーに貢献し居住性を高めることとなります。このため本施設では南側居室の窓には庇とリバーを組み合わせた形態としました。また東西面は必要最小限の開口のみを設け、日射の影響を防いでいます。風除室の東西には建物と体となったバーミヤを設置し、光と影のコントラストを見せるよう計画しました。また、室外機置き場(テックワルシャフト)等に花ブロックを使用し、地域性を醸し出しています。その他、高効率照明器具(昼光センサー、人感センサー付き)、太陽光・風力発電・外灯の採用及び雨水を便所の洗浄水として再利用するなど環境対策に配慮しています。

